

安全データシート

1. 製品及び会社情報

- ① 製品の名称 : チチブエースボンド
② 会社名 : 秩父コンクリート工業株式会社
③ 住所 : 東京都台東区上野 7-7-6
④ 担当部門 : 営業本部
⑤ 電話 : 03-3844-5062
⑥ F A X : 03-3844-5087
⑦ 緊急連絡先 : 生産本部 熊谷工場 048-521-2161
⑧ 推奨用途及び使用上の制限 : セメントモルタル混和用
⑨ 作成・改定日 : 2013年1月22日

2. 危険有害性の要約

GHS分類	区分
物理化学的危険性	: 分類できない
生殖毒性	: 区分 1B
水生環境有害性 (急性)	: 区分 3
水生環境有害性 (慢性)	: 区分 3

記載がないものは分類対象外または分類できない。

ラベル要素



注意喚起語 : 危険

危険有害情報

生殖能または胎児への悪影響のおそれ
水生生物に有害
長期的影響により水生生物に有害

注意書き

《予防策》

- 絶対に飲まないこと。
- 使用前に本 SDS を読み、全ての安全情報を理解するまで取り扱わないこと。
- 保護手袋/保護メガネ/保護衣を着用すること。
- 粉塵/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 屋外または換気のよい場所で使用すること。
- 換気が十分でない場合には、呼吸器用保護具を着用すること。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- 残液や洗浄水は絶対に河川に流さないこと。

《対応》

- ・皮膚に付着した場合 :
多量の水と石鹼で洗浄すること。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
- ・衣類に付着した場合 : 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・眼に入った場合 :
水で 15 分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は

外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は必ず医師の診断/手当てを受けること。

- ・吸入した場合：
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
- ・暴露した場合または暴露の懸念がある場合及び気分が悪い時：医師の診断/手当てを受けること。
- ・漏洩した場合：布等で拭きとること。

《保管》

容器を密閉し、換気の良いところで保管すること。
凍結（3℃以下）や高温（40℃以上）は避け、屋内で保管すること。

《廃棄》

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

3. 組成成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物
化学名または一般名 : アクリル系共重合体ラテックス

濃度または濃度範囲

化学名または一般名	略号	含有量	管報公示整理番号	CAS 番号
			化審法・安衛法	
アクリル系共重合体	—	42.5 %	登録済	未登録
ポリビニルピロリドン	—	2.0 %	7-172	9016-45-9
フタル酸ジノルマルーブチル	—	0.9 %	3-1303	84-74-2
エチレングリコール	—	0.4 %	2-230	107-21-1
水	—	53.8 %	—	7732-18-5
その他添加物※)	—	0.4 %	登録済	—

※) アンモニアとして 0.1%含有。
残留モノマーとしてアクリル酸 2 エチルヘキシル 0.2%含有。

4. 応急措置

眼に入った場合

- ・ 水で 15 分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は必ず医師の診断/手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

- ・ 多量の水と石鹸で洗浄すること。
- ・ 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。

吸入した場合

- ・ 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

- ・ 安静にして直ちに医師の診断を受けること。
- ・ 水で口の中を洗浄し、コップ 1～2 杯水又は牛乳を飲ませること。
- ・ 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

最も重要な兆候及び症状

特になし

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用すること。

医師に対する特別な注意事項

特になし

5. 火災時の措置

適切な消火剤 : 水、泡消火剤、粉末消火剤

使ってはならない消火剤 : 特になし

特有の危険有害性 :
 ラテックス状態では不燃である。乾燥物は可燃であり、燃焼ガスには、二酸化炭素、一酸化炭素等のガスが含まれるので、消火作業の際には煙を吸入しないように注意すること。

消火作業用の特別な保護具と予防措置

- ・ 適切な保護具（耐熱性着衣など）を着用すること。
- ・ 可燃性のものを周囲からすばやく取り除くこと。
- ・ 指定の消火剤を使用すること。
- ・ 消火活動は風上から行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する予防措置、保護具および緊急時措置

- ・ 作業の際には適切な保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
- ・ こぼれた場所は滑り易いために注意すること。

環境に対する予防措置

- ・ 漏出物を直接河川や下水に流してはならない。
- ・ 河川、湖沼へ流出した場合は直ちに監督官庁に連絡をとること。

回収、中和、封じ込めおよび浄化方法と機材

- ・ 多量に流出した場合は毛布、土嚢等を用いてせき止め、バキューム等で汲み上げたり、硫酸バンド等の凝集剤を散布して凝固させ、回収後焼却処理すること。
- ・ 少量の場合でも水で流さずウエス等で拭きとり、焼却処理すること。

二次災害の防止策

- ・ 濡れた状態で放置すると滑りやすくスリップ事故の原因となる為、漏出物の上をむやみに歩かないこと。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 取扱い場所の近くに洗眼、水洗設備を設けることが好ましい。
- 局所排気・全体排気 : 屋外または換気のよい場所で取り扱う。換気が十分でない場合には、呼吸器用保護具を着用すること。
- 安全取扱い注意事項 : 保護手袋/保護メガネ/保護衣を着用すること。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 できるだけ蒸気（揮発成分）を吸入しないこと。

保管

- 技術的対策 : 凍結、高温、直射日光を避け、屋内に貯蔵すること。
- 保管条件 : 気温 3～40℃の屋内で保管すること。
 皮張り防止のため、使用後は密封して貯蔵すること。
- 混触禁止物質 : 『10.安定性及び反応性』を参照
- 安全な容器包装材 : 内面コートされた金属容器及びプラスチック容器が望ましい。

8. 暴露防止および人に対する保護措置

許容濃度、管理濃度（職業的暴露限界値、生物学的限界値）

成分	管理濃度	許容濃度		
ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル	設定されていない	—	TWA	ACGIH
フタル酸ジニルマルーブチル	設定されていない	5mg/m ³	TWA	ACGIH
エチレングリコール	設定されていない	100mg/m ³	STEL	ACGIH
アンモニア	設定されていない	25ppm	TWA	ACGIH

設備対策

- ・ 取扱いについてはできるだけ密閉された装置、機器を使用する。
 取扱い場所の近くに洗眼、水洗設備を設けることが好ましい。

保護具

- 呼吸器の保護具 : 防毒マスク（有機ガス用）が好ましい。
- 眼の保護具 : 樹脂製のゴーグルタイプが好ましい。
- 手の保護具 : ゴム又は樹脂製の保護手袋が好ましい。
- 皮膚及び身体の保護具 : 樹脂又は厚手の布地製の長袖、長ズボンを着用することが好ましい。
- 適切な衛生対策 : 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的および化学的性質

外観	: エマルジョン	色	: 乳白色
臭気	: 微アクリル酸エステル臭	pH	: 7.0-10.0
融点	: - °C	凝固点	: 約0 °C
沸点 (製品)	: 100 °C	引火点	: - °C
発火点	: 自然発火せず	比重(相対密度) (製品)	: -
爆発限界 (上限)	: - %	爆発限界 (下限)	: - %
蒸気圧	: - Pa	溶解度	: 水に対して無限大に希釈可能
オクタノール/水分配係数	: -	動粘性率	: -
密度	: - g/cm ³	その他のデータ	: 特になし

10. 安定性および反応性

安定性	: 通常の取扱いにおいては安定で危険性はない。
危険有害性反応可能性	: 特になし
避けるべき条件	: 3°C以下あるいは40°C以上とならないようにする。
混触危険物質	: 水と接触して発熱するもの及び有害ガスを発生するおそれのあるものとは同一場所に貯蔵しないこと。
危険有害な分解生成物	: 情報なし

11. 有害性情報

急性毒性 :
(製品のデータ) 情報なし
(成分データ)

フタル酸ジノルマルーブチル	6,300mg/kg	経口ラット (LD50)	区分 5
フタル酸ジノルマルーブチル	≥ 20000mg/kg	経皮ウサギ (LD50)	区分外
フタル酸ジノルマルーブチル	≥ 15.68mg/L	吸入粉塵、ミストラット (LD50)	区分外
エチレングリコール	4,000-10,200mg/kg	経口ラット (LD50)	区分 5
エチレングリコール	10,600mg/kg	経皮ラット (LD50)	区分外

成分の健康有害性情報 表 1

	皮膚腐食・刺激	眼損傷・刺激	呼吸器感作性	皮膚感作性	生殖細胞変異原性
フタル酸ジノルマルーブチル	区分 3	区分 2 B	情報なし	区分 1	区分外
ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル	区分 2	区分 2 A	情報なし	-	区分外
エチレングリコール	区分 3	区分 2 B	情報なし	-	区分外
アンモニア水	区分 1 A・1 C	区分 1	情報なし	-	-
アクリル酸-2-エチルヘキシル	-	-	情報なし	区分 1	-

成分の健康有害性情報 表 2

	発がん性	生殖毒性	特定標的臓器 (単回)	吸引性呼吸器有害性
フタル酸ジノルマルーブチル	区分外	区分 2	区分 1 (腎臓、神経系)、 区分 3 (気道刺激性)	情報なし
ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル	-	区分 1 B	-	情報なし
エチレングリコール	区分外	区分 2	-	情報なし
アンモニア水	-	-	区分 2 (呼吸器系)	情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性

魚類 :

フタル酸ジノルマルーブチル	0.46mg/L(96H)	アメリカナマズ
ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル	> 1000mg/L(96H)	ブルーギル
エチレングリコール	> 100mg/L(96H)	ヒメダカ

甲殻類 :

アンモニア水	0.66mg/L(48H)	オオミジンコ
--------	---------------	--------

藻類 : データなし

	水生環境有害性 (急性)	水生環境有害性 (慢性)
フタル酸ジノルマルブチル	区分1	区分外
ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル	区分外	区分外
エチレングリコール	区分外	区分外
アンモニア水	区分1	区分1

残留性/分解性 : データなし
 生体蓄積性 : データなし
 土壌中の移動性 : データなし
 他の有害影響 : 特になし

13. 廃棄上の注意

- ・ 「7.取扱い及び保管上の注意」の項参照
- ・ 内容物の廃棄は、焼却炉で少量ずつ焼却処理するか、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

汚染容器包装の廃棄方法

- ・ 使用残、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物業者と委託契約をして処理をすること。

14. 輸送上の注意

国連番号 : 該当しない

国連分類 : 該当しない

特別の安全対策

共通 取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。容器に漏れが無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

陸上輸送 消防法、労働安全衛生法、毒劇法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められた運送方法に従うこと。

海上輸送 船舶安全法の定めるところに従うこと。

航空輸送 航空法の定めるところに従うこと。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 法 57 条の 2 施工令第 18 条の 2 別表 9
 (名称等を通知すべき危険物及び有害物)
 政令番号 479 号 フタル酸ジノルマルブチル
 政令番号 75 号 エチレングリコール
 政令番号 39 号 アンモニア

化審法 : 法第 2 条第 6 項 第 3 種監視化学物質

政令番号 43 号 ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル

化学物質管理促進法 : 法 2 条第 2 項 施工令第 1 条 別表 1 (第 1 種指定化学物質)

政令番号 410 号 ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル
 (平成 22 年 4 月改正前 政令番号 270 号)

記載してある化学物質による PRTR 届出のための排出・移動量の把握は平成 22 年 4 月からの開始であり、平成 21 年度分の届出は政令改正前の第 1 種指定化学物質に基づき行う必要がある。

消防法 : 該当しない

毒物及び劇物取扱法 : 該当しない

船舶安全法 : 該当しない

水質汚濁防止法 : 法第 2 条、令第 2 条、排水基準を定める省令第 1 条

政令番号 26 号 (アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸加工物)

16. その他情報

主な引用文献

- ・ 日本産業衛生学会誌 49 149-160 (2007)
- ・ TLVs and BEIs,ACGIH(2008)

- GHS 分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- IUCLID Dataset, EUROPEAN COMMISSION – European Chemicals Bureau, FEBRUARY, 2000
- 日本規格協会 GHS に基づく化学物質等の分類方法 JIS Z 7252:2009

※ 注意

安全データシートは危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業所は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずる必要がある事を理解した上で、活用されるようお願いいたします。

記載した内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、以上の情報は新しい知見により、改定されることがあります。また、注意事項は通常の手続きを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。本製品を使用するに当たって、提供された情報を適用するかどうかの最終的な決定は使用者の責任で行って下さい。全ての物質は、未知の危険性を呈する可能性があり、ここで示した危険性は起こり得る全ての危険性を網羅したものであるということを保証するものではありません。従って、本データそのものは、安全の保証書ではありません。

以上